



(1) 横浜キャンパスに集結した理工系5学部

- 理学部
  - 理学科
  - ・数学コース ・物理コース ・化学コース
  - ・生物コース ・地球環境科学コース
  - ・総合理学コース
- 工学部
  - 機械工学科 / 電気電子情報工学科
  - 経営工学科 / 応用物理学科
- 化学生命学部
  - 応用化学科 / 生命機能学科
- 情報学部
  - 計算機科学科 / システム数理解学科 / 先端情報領域プログラム
- 建築学部
  - 建築学科
  - ・建築学系 ・都市生活学系

(2) 近年の主な学部学科再編

- 2020年4月
  - 横浜キャンパスに国際日本学部を新設
- 2021年4月
  - みなとみらいキャンパスを新設。経営学部、外国語学部、国際日本学部がみなとみらいキャンパスに移転
- 2022年4月
  - 横浜キャンパスに建築学部を新設
- 2023年4月
  - 横浜キャンパスに情報学部と化学生命学部を新設し、理学部が湘南ひらつかキャンパスから移転

最大880万円を給付。返還不要の奨学金で4年間学ぶ。

向学心あふれる学生を支援する給費生制度

給費生制度は1933年から実施している神奈川大学独自の伝統ある奨学金制度です。広く全国から優秀な人材を募り、その才能を育成することを目的としています。試験は例年12月下旬に実施しています。一般入試と同様の3科目型で行われ、推薦書不要、併願可能です。給費生として入学すると、返還不要の奨学金(4年間最大880万円)を給付します。

- 試験日: 2023年12月17日(日)
- 合格発表日: 2024年1月12日(金)
- ※インターネット出願、郵送消印有効
- ＜昨年度参考＞
- 志願者 8,730人
- 給費生合格者 281人
- 一般入試免除合格者 2,990人

給費生試験 [全学部全学科]

- 4年間で最大880万円を給付※
  - ・入学金相当額を入学初年度に給付
  - 法・経済・人間科学部は年額100万円、経営・外国語・国際日本学部は年額110万円、理・工・建築・化学生命・情報学部は年額145万円を原則4年間給付※
  - ・自宅外通学者には年間70万円の生活援助金を原則4年間給付※ ※毎年継続審査あり
- 全国22会場で実施！
  - 横浜(本学)・札幌・秋田・仙台・郡山・新潟・富山・長野・松本・甲府・高崎・水戸・さいたま・千葉・沼津・静岡・名古屋・大阪・広島・松山・福岡・那覇
- 2種類の合格
  - ＜給費生合格＞＜一般入試免除合格＞
  - 給費生として採用されなかった場合でも、一般入試合格者と同等もしくはそれ以上の学力を有すると認められた受験生は、一般入試を免除して入学が許可されます。
- 留学費用の補助など、入学後のサポートも充実



おぐまこと  
小原 誠学長  
1978年筑波大学第一学群人文系文学類卒業。85年同大学大学院博士課程歴史人類学研究科単位取得退学。筑波大学博士(文学)。専門は民俗学、文化人類学。沖縄国際大学、神奈川大学教授などを経て2022年より現職。

2023年に創立95周年を迎えた神奈川大学。創設者の米田吉盛が「教育は人を造るにあり」と説き、「中正堅実」な若者を世に送り出すことを教育理念とする横浜学院を1928年に横浜・桜木町に開学して以来、「人を造る」教育を実践しています。

近年は、みなとみらいキャンパスの新設や、学部学科の新設・再編といった改革を進め、現在は全11学部を擁する総合大学へと発展。2022年の建築学部新設に続き、2023年4月には横浜キャンパスに情報学部と化学生命学部が新設され、理学部も湘南ひらつかキャンパスから移転、理工系5学部全てが横浜キャンパスに集結<sup>(1)</sup>しました。

2028年に迎える創立100周年と、その先の未来に向けた神奈川大学の取り組みを紹介します。

# 神奈川大学

〒221-8624 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-26-1 入試センター TEL 045-481-5857 <https://www.kanagawa-u.ac.jp/>

## 「教育は人を造るにあり」 人との出会いが地域を変え、 世界を変えていく 学生自身の未来を変えていく

### 良識ある判断力と実践力で 新たな価値を創造する

神奈川大学は「人を造る」という建学の精神のもと、開学以来「中正堅実」な人材の輩出を重視してきました。偏った思想を持たず、真実に基づいた考えを堅実に育むための教育方針として掲げているのは「質実剛健」と「積極進取」です。「質実剛健」とは伝統や古典を尊重し、良識を重んじ、堅固な思想をもって正義を貫くこと。「積極進取」とは自由な発想で自ら新しい物事に取り組みむことであり、困難な物事に對しても積極的に挑戦し、進歩・進化を求めていくこと。これらの現代的な解釈について、小原学長は次のように話します。

「質実剛健は、基本的な学力を身につけた上で、体系的に専門性を高めていくこと。積極進取は、産学連携教育などを通して社会に對する理解を深め、良識ある判断力と実践力を育むことです。本学が目指す『中正堅実』とは、これらを胸に自主的かつ主体的に新たな価値を創造する

ための資質といえます。」  
なお、この中正堅実で向学心のある若者が安心して学べる環境を提供するとともに、金銭的な理由が向学心の妨げにならないようにと創設されたのが、1933年から現在に続く「給費生制度」です。

### データサイエンス教育を 全学的に推進

神奈川大学では近年、学部学科の再編が進み、2023年4月には情報学部と化学生命学部が新設されました。情報学部は「計算機科学科」「システム数理解学科」「先端情報領域プログラム」の2学科1プログラム。理学と工学を横断する広い教養と確かな専門性を養います。

化学生命学部は「応用化学科」と「生命機能科学」の2学科。エネルギーや素材などの応用化学分野から遺伝子、タンパク質、動植物生理学といった生命科学分野まで、充実した実験環境で分野融合的に学修します。洗剤や化粧品、香料、機能性食品、衛生用品、医薬品など、身近なテーマで専門的に学べることも魅力です。3年次からは「応用化学」「生命機能科学」「環境生活科学」の3コースに分かれて学びます。

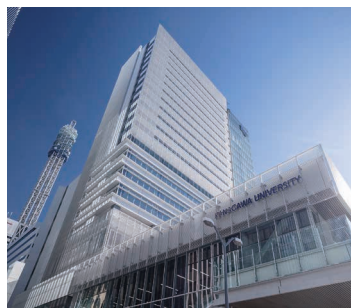
一方、全学的な動向では「共通教養データサイエンスプログラム」が2022年度に開始しました。「教養データサイエンス」と、初年次教養科目である「FYS (First Year Seminar)」の2科目が設けられ、

### 学生の声を聞くからこそ 学生本位の教育が成立する

データサイエンス教育と並んで、神奈川大学が低学年次から注力しているのがキャリア教育です。その目的は、入学後の早い段階から将来を考える機会を継続的に設け、社会に出ることへの不安を払拭すること。4年間で身につけるべき資質として「自己発見」や「問題解決力」を設定し、実践の場となる「キャリアデザイン」や「国内・海外インターシッ プ」といった科目が用意されています。キャリア教育で重視されているのは、学生が多くの人と出会うこと。コミュニケーションを進めることだと小原学長は力説します。

「例えば『卒業生との交流会』では、社会で活躍する卒業生のリアルな声から社会の実情を知ることができま す。将来の自分の姿を具体的に想像するきっかけにもなり、就職活動の準備につながられます。また『内定者との交流会』では、内定を獲得したばかりの4年生と交流し、具体的な対策や心構えなどを聞くことができ ます。さらに、就職課のキャリアアドバイザーとの面談は、1カ月で延べ1000人を超える学生が利用し、対面による『合同企業説明会』も学内で毎月実施しています。」

学生と教員との関係性に目を向けると、1年次からゼミなどの少人数教育や体験型学習が進められ、理工系では実験や実習科目も充実してい



2021年に開設したみなとみらいキャンパス

両方の単位を修得することで同プログラムの修了者となります。修了者には、知識やスキルのデジタル証明として「オープンバッジ」が与えられます。

「教養データサイエンス」では、ビッグデータの活用やAI技術などに関する基礎知識を修得し、データを用いることで説得力をもって自分の意見を伝える能力を養います。「FYS」は、新入生が大学ならではの学修環境に早く適応するための1年次前期の科目。デジタル化が進む大学教育に必要な情報モラルの基 本や、正しい情報収集方法を学びながら情報リテラシーの基礎を身につけます。

この「共通教養データサイエンスプログラム」は、2023年8月に文部科学大臣から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルに認定されました。これに続き、データサイエンス教育のさらなる推進に向けて、同制度の応用基礎レベルに相当するプログラムの検討を進めています。

ます。日々の学びの中で、人と人のつながりを創出することが学生を成長させるのだといえます。

「教育とは、学生に知識を授けることだけではありません。例えば、学生アンケートをはじめ、学生の声を教職員が丁寧に聞いて対応することが不可欠です。学生の声を聞かなければ、学生が求める教育にはなりません。教職員と学生がコミュニケーションを深め、学生一人ひとりに寄り添うからこそ、大学は学生の人間形成に寄与できるのであり、対話の積み重ねこそが、教育力向上の原動力なのです。」

### 国際都市・横浜で探究を深め 新たな自分に出会ってほしい

神奈川大学におけるコミュニケーション重視の方針は、学内だけでなく、どまりません。国際都市・横浜、とりわけみなとみらい地区にはグローバル企業が集積し、官公庁や美術館などの文化的施設も点在しています。この恵まれた立地を生かし、みなとみらい全体を「街ごとキャンパス」として捉えた上で、多くの人と出会い、コミュニケーションを重ねることを重視。学びの宝庫である横浜で探究を深め、社会の課題解決に貢献していこうという考えです。

例えば、企業と連携したPBLが盛んであるほか、横浜市をはじめ複数の自治体と包括連携協定を締結。周辺の河川や港湾エリアの水質汚染対策を地域住民とともに考え、ルー

ルづくりにつなげていく実践的な保全活動などに学生が参画しています。また2023年7月には、学生と横浜エリアの高校生が連携し、ともに横浜の将来を考えるイベントとして「かながわユースフォーラム2023」が人の「和」をつなげよう」が開催されました。こうした活動を含め、神奈川大学の学びについて小原学長は次のように話します。「学生に期待したいのは、横浜という地域を通じて日本を学び、世界を学ぶことです。そのことが学生自身の未来を変えていくことにもつながっていきます。『横浜から未来を変える』と言ってもいいでしょう。そのためには人との出会いが大切ですし、その出会いによって「可能性に満ちあふれた自分」にも気づくかもしれません。本学での学びを通じて課題解決力を身につけて、さまざまなグローバル課題に對して『積極進取』の心構えをもってアプローチできる人材へと成長してほしいと思います。」



2023年4月に理工系学部が集結した横浜キャンパス